

あるとき、ゴタム村の男が、ノッティンガムの市場にチーズを売りに行きました。ノッティンガム橋への坂を下りて行くとき、チーズがひとつ、ふくろから落ちて、丘を転がり落ちていきました。

「なんと、おまえ、ひとり市場へ行くのかね。じゃあ、ほかのやつらもおまえの後から行かせよう」

男はそういって、ふくろを下ろしてチーズをぜんぶ取り出し、丘の上から次々に転がしました。チーズは、転がって、あっちのやぶ、こっちのやぶに入っていました。

「おうい、おまえら。市場のそばで会おうなあ」

男は、そういって、チーズを見送り、市場へ向かいました。そして、市場に着くと、チーズがやって来るのを待ちました。市場が閉まるころまで待っていました。チーズはやって来ません。男は、友だちや知り合いの店を回って、

「おれのチーズがこっちへ来るのを見なかったかね」とたずねました。みんなは、

「だれが運んでくることになってるんだい」とききました。男は、

「自分でさ。あいつらはちゃんと道を知ってるんだから」と答えました。それから、男は、はっと気が付いていました。

「そうだ。あいつら、あんまり速いこと転がったんで、市場を通りすぎて行っちゃまったにちがいない。今頃は、きっと、ヨークあたりまで行ってるぞ」

男は、すぐに馬を貸してもらって、ヨークまで走らせました。けれども、チーズには会えませんでした。

それからのちもずっと、チーズがどこに行ったのか、分かりませんでしたとき。  
おしまい

原語：『MORE ENGLISH FAIRY TALES』 JOSEPH JACOBS

再話：村上郁